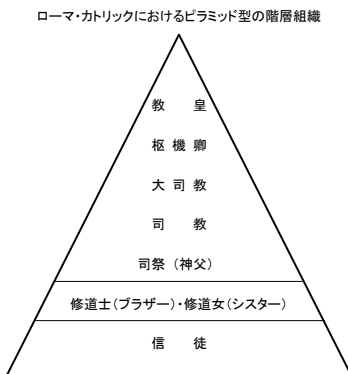


プロテスタントとカトリックの違い

プロテスタントとカトリック（という言葉）は、宗教改革（16世紀の前半、ドイツのルター、スイスのジュネーヴにおけるカルヴァンらの教会改革から始まって、キリスト教世界をカトリック教会とプロテスタント教会に二分し、同時に社会と政治の変動をもたらした大きな変革）以降の概念（主義）を言う。

▶ プロテスタントとは、ローマ・カトリックに抗議（プロテスト）して別れたキリスト教の教派を指す。



ローマ・カトリックは、聖書と伝統（聖伝）を拠り所にし、「救われる」ためには信仰に加えて、良い行い（業）が必要だとする立場（考え）を取る。併せて、「教会」や sacrament（恩恵を受ける手段や方法）の権威を重んじ、教皇（ローマ教皇）を頂点とするピラミッド型の階層組織（位階制度）を取っている。礼拝は儀式的な典礼（儀礼）が中心で、Sacramentは七つ（→洗礼 *baptisma*、堅信 *confirmatio*、聖餐 *eucharistia*、告解（赦し）*poenitentia*、病者の塗油 *unctio*、叙階 *ordinatio*、結婚 *matrimonium*）ある。

プロテスタントは聖書以外の規範を認めず、個々の信仰のみによる救いを説く。

また、聖職者に特別の権威を認めず、信じる各人が直接神の前に立つ「万人祭司主義」を取り、礼拝の中心を説教におく。多くのプロテスタント教会では、Sacramentは「洗礼」と「聖餐」を意味し、神のみ言葉（御言葉）としての聖書が同等に尊重される（Sacramentはそれぞれ異なった形で象徴的に解されている）。

ローマ・カトリックはローマ教皇を中心に一組織となっているのに対し、プロテスタントは信仰の自由と教理の純粋性にこだわるため、分派が多い。

神父と呼ばれる人がいるのがカトリック教会で、牧師と呼ばれる人がいるのがプロテスタント教会である。

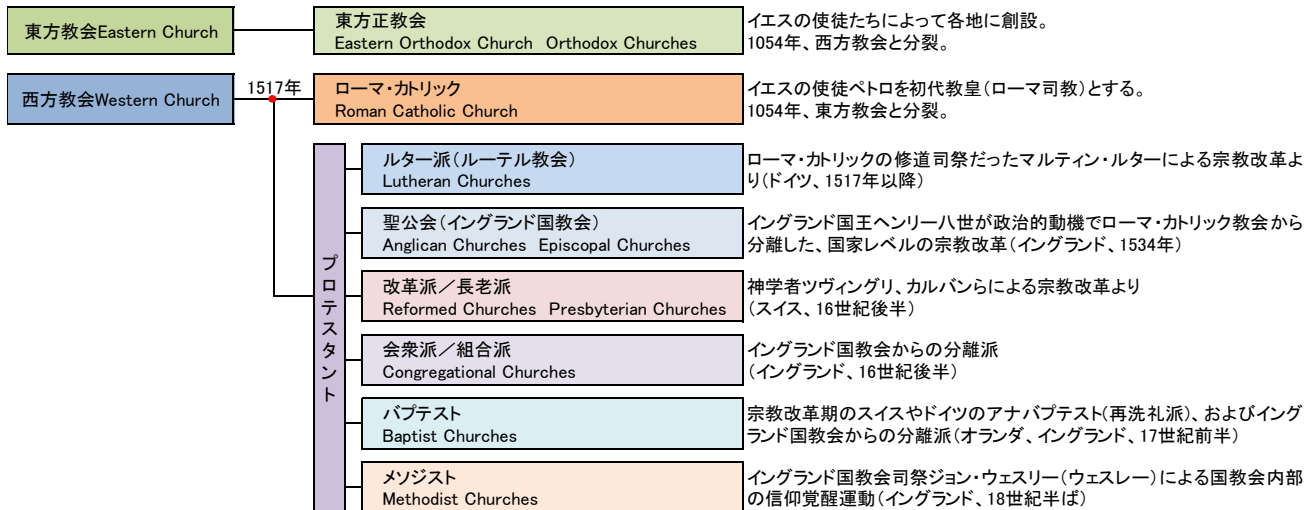
▶ 礼拝の対象

プロテスタントが礼拝するのは、**①父なる神**、**②子なるキリスト**、**③聖霊の「三位一体の神」**のみです。カトリックでは、神だけではなく聖人もも崇拝し、マリヤを「神の母」とし、信徒のためにキリストへのとりなしをする方として崇拝しています（聖書では、マリヤを崇拝の対象としていませんので、プロテスタント教会では、それは偶像礼拝であるとして退けています）。

✦ プロテスタントとカトリックの違い

	プロテスタント Protestant	カトリック Catholic
最高指導者	いない	ローマ教皇（法王）
聖職者階級	ない	枢機卿→司教→司祭→信徒
聖職者呼称	牧師	司祭（神父）
聖職者の結婚	できる	できない
聖職者の服装	スーツが多いが祭服を着る場合もある	祭服
教会イメージ	簡素な礼拝堂が多い	飾りの多い荘厳なつくりの礼拝堂が多い
特徴的しぐさ	特にない	胸の前で十字架を切る
洗礼名	一部ある	ある
マリア崇拝	ない	ある
聖人	いない	たくさんの聖人がいる
信者の離婚・再婚	個人の自由	禁止

✠ キリスト教における教派等



【参考】 カトリックと進化論

カトリック教会では 1996 年 10 月 23 日にローマ教皇ヨハネ・パウロ 2 世が、「進化論は仮説以上のもので、肉体の進化論は認めるが、人間の魂は神に創造されたもの」だと述べた。つまり、人間の精神活動の源泉たる魂の出現は、進化論的過程とは関係ないとする限定つきで、進化論をキリスト教と矛盾しないものと認めた。

「神は生物を進化するよう造った」 現ローマ法王も肯定 (2014 年 10 月 30 日 朝日新聞)

宇宙が誕生したビッグバンも進化論も、神の教えと矛盾しない——。ローマ・カトリック教会のフランシスコ法王は 28 日、天地創造に関する科学の理論を肯定した。世界の高名な科学者が集うバチカン科学アカデミーでの会合で語った。法王は「世界の始まりは混沌の産物ではない。創造主の手がビッグバンを必要とした」「神は、自然の法則に従って進化するよう生物を造られた」などと述べた。

旧約聖書は、神が 6 日間で天地を創造したと記す。地動説を唱えたガリレオへの 17 世紀の異端裁判などで非科学的と思われがちなバチカンだが、1950 年から進化論を認めてきた。ただ保守派の前法王ベネディクト 16 世は「神の創造を信仰で理解することと科学による証明は対立しない」と述べる一方で、「進化論はすべての問いに答えてはいない」と発言した。生命の誕生や進化に何らかの「知的計画」が働いたと主張し、米国で支持を集めるキリスト教右派への追い風と受け止められていた。(ローマ=石田博士)

【参考】 キリスト教の宗派

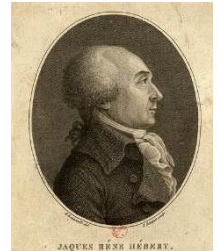
- ローマ・カトリック教会：1 世紀、イタリアのローマ、キリスト教最初の教会、ペトロ創設
- 非カルケドン派正教会：3～4 世紀、各地、コプト正教会、シリア、エチオピア、アルメニアの教会等
- アルメニア教会：294 年頃、アルメニアのエチミアジン、アルメニアは、最初にキリスト教を国教とした
- 東方正教会：1054 年、コンスタンティノープル (イスタンブール)、1054 年に西のローマ・カトリック、東の正教会に分裂
- ルター派：1520 年、ドイツ、起源はドイツの宗教学者マルティン・ルター、聖書のみが教義を伝える
- 英国国教会：1534 年、イギリス・ロンドン、16 世紀にローマ・カトリックから分派
- メノナイト派：1540 年代、オランダ、牧師メノ・シモンズ創設、聖書中心、再臨を信じる
- 長老派：16 世紀、スコットランド、仏の神学者ジャン・カルヴァン等に起源、司教制を廃止、長老性
- バプテスト派：17 世紀初頭、オランダとイギリス、英国プロテスタントから派生、聖書中心、成人のみ洗礼
- クエーカー派：1650 年頃、イギリス、指導者ジョージ・フォックス、由来:神の名の為に我が身が震えた
- アーミッシュ派：17 世紀後期、スイス、厳格なプロテスタント、メノナイト派牧師ヤーコブ・アマン指導
- モラヴィア兄弟団：1722 年、ドイツのザクセン州、

メソジスト派：1720年代～1730年代、イギリス、
シェーカー派：1758年頃、イギリス、由来：宗教的恍惚体験での震え
ユニテリアン派：1774年、イギリス、唯一の神のみを信じる、人生経験に基づく心理を迫及
モルモン教：1830年、USAニューヨーク、末日聖徒イエス・キリスト教会、米ジョセフ・スミス設立
プリマス・ブレザレン：1831年、イギリス・プリマス、プロテスタント教会のセクト主義を嫌い発足
キリスト・アデルフィアン派：1844年、USAヴァージニア州リッチモンド、ジョン・トマス創設
セブンスデー・アドベンチスト教会：1863年、USAミシガン州バトルクリーク、安息日再臨派
救世軍：1865年、1865年、イギリス・ロンドン、メソジスト派牧師ウィリアム・ブース創設
カリスマ運動：1950年代～1960年代、各地、カリスマ（聖霊の賜物）、再臨を信じる
アフリカ系教派：20世紀、アフリカサハラ以南の地域、西洋のキリストとは異なる独自のキリスト教

参考：宗教学大図鑑 三省堂

【参考】フランス革命時の非キリスト教運動

フランス革命（1789年～1799年、ブルボン朝の絶対君主制と封建的体制を倒した世界史上の代表的な市民革命＝ブルジョア革命）が進行し、ジャコバン派の独裁政権時の1793年に、左派（ジャーナリストで政治活動家）のジャック・ルネ・エベール（Jacques René Hébert、1757年11月15日～1794年3月24日、右写真）によって進められた、神に代わり人間の「理性」を崇拝しようという非キリスト教化運動。



▶フランス革命は当初、教会の汚職や聖職者の富の占有（専有）に対する抗議として始まったが、これは多くのキリスト教徒も容認するものだった。なぜなら、当時のフランスは、ローマ・カトリックが支配的な立場にあり、少数の聖職者や貴族の特権階級が多くの土地を所有し、国を支配していたからである（当時、フランスには3つの身分制度があり、第一身分が聖職者、第二身分が貴族、第三身分が平民だった）。

アンシャンレジーム（フランス革命以前のブルボン朝、特に16～18世紀の絶対王政期のフランスの社会・政治体制）のもとで王権と結びついていたカトリック教会に対しては、革命当初から批判が強められており、特にジャコバン派の中の急進派であるエベール派（コルドリエ派ともいう）がキリスト教否定の立場をとった。

▶フランス革命の目途（意義）

フランスにおいてカトリック教会が保有していた大量の土地、権力、財産の公的な接収であり、カトリックそのものの解体であった（主たる動機については多くの議論がある）。

結果、革命政府は教会を抑圧し、国教として位置づけられてきたカトリックとそれに依存した王政を廃止し、更に3万人の司祭を追放、数百名の聖職者を殺害した。

▶フランス革命が起こった主な原因

当時のフランスは、聖職者・貴族・平民のピラミッド式（聖職者＋貴族：平民＝2：98）で、特権身分階級は税が免除されていた。平民たちは特権身分階級の贅沢な暮らしのために、働くという不平等社会そのものだった。併せて、当時のフランスは膨大な軍事費による慢性的財政難で、その補填は平民たちへの増税によって行われていたので、聖職者や貴族に対する平民たちの不満は最高潮に達していた。